



一冊の本との出会い

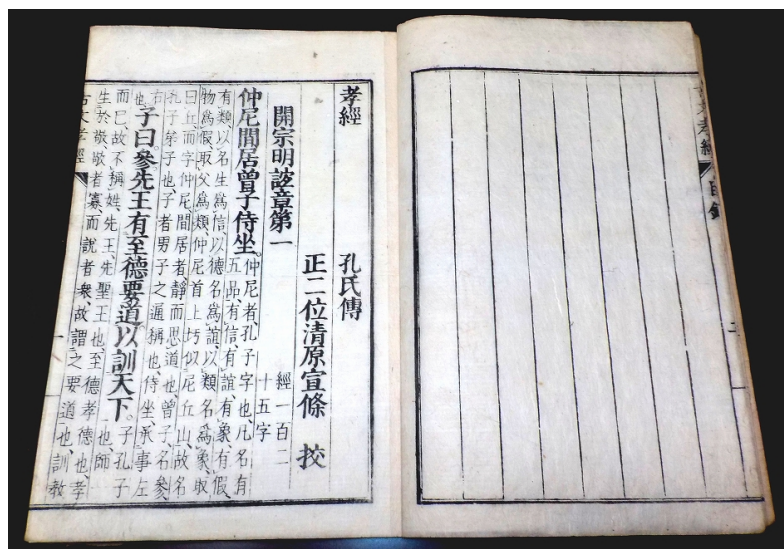
佐野 大介（中国哲学）

「将来の目標」、持っていますか？ これに関して、「一冊の本との出会いが人生を変えた」、こんなフレーズを聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。私の場合がズバリこれで、高校時代の昼休みに図書室で、たまたま読んだ中国の故事成語を紹介した本に感動し、大学で中国哲学を専攻することを決めました。あの時、なにげなくあの本を手にとっていなかったら、その後の人生は随分違ったものになっていたと思います。どうです、ちょっと「いい話」っぽいでしょう？ というよりむしろ作り話っぽいかもかもしれませんが、実話です。将来の目標がまだ決っていない人は、ちょっと図書室にでも行ってみるとよいかもしれません。

そんなこんなで、学生時代以来、ずっと中国哲学の重要概念である「孝（親孝行）」を専門に研究しています。「孝」というと、「親に対する従順」というイメージが強いかもしれませんが、中国哲学（儒教）における孝は、そんなに単純なものではありません。祖先や親を想うことに加えて、子孫を残すといったことも「孝」に含まれます。つまり、過去（祖先）・現在（父母）・未来（子孫）を貫く生命論（血の連鎖）として、祖先祭祀・敬愛父母・子孫継嗣の三つを合わせて「孝」と表現しているのです。この「孝」という概念、近隣地域にも広く伝わり、東アジアの思想や文化に大きな影響を与えました。

本当に重要な概念です。大学四年・修士二年・博士三年と、ずーっと（親のすねをかじりながら）「孝」を研究していた私がいうのですから、たぶん間違いありません。

（写真は『古文孝経』[筆者蔵]）



分野・専門紹介—File64

人と社会を知る

分野・専門名：社会学



社会学とは、何を研究する学問だと思いますか？社会学では、人と社会に関する事柄すべてが研究対象となります。家族や自然、美容、音楽、食べ物、スポーツなど、研究室のメンバーの研究テーマも人それぞれです。

私は文学部というと、とにかく本をたくさん読む学部、というイメージでした。しかし、社会学研究室はひと味違いました。社会学の研究では、研究室で本を読むことにとどまらず、研究室外に出て、フィールドワークを行います。フィールドワークにより、大学の一室で本を読んでいるだけでは得られない、生きた情報を得ることが

できます。フィールドワークの具体的な内容としては、調査テーマに沿って学外の人に聞き取り調査をしたり、お祭りのようなイベントに実際に参加したりします。

また、社会学研究室のもう一つの特徴として、2年次に行う「調査実習」というものがあります。この調査実習では、研究室の同期全員で一本の論文を書き上げます。毎週の講義時間に加え、講義時間外でもフィールドワークなどの調査や執筆を行います。この調査実習を通して、社会学の基礎的な経験を積めるだけでなく、研究室の同期との仲も深まります。夏場には、ゼミごとの合宿に加え、調査実習のメンバーでも1泊2日の調査実習合宿を行います。またこの調査実習で書き上げた論文は、社会調査インカレという他大学も交えた報告会で発表します。このように社会学研究室では、他の専攻とはひと味違い、研究室を飛び出して様々な場所で学びを得ることができます。いろいろな人に関わってみたい、自分の知らない世界に飛び込んでみたい、という人は、ぜひ社会学研究室に来てみて下さい！

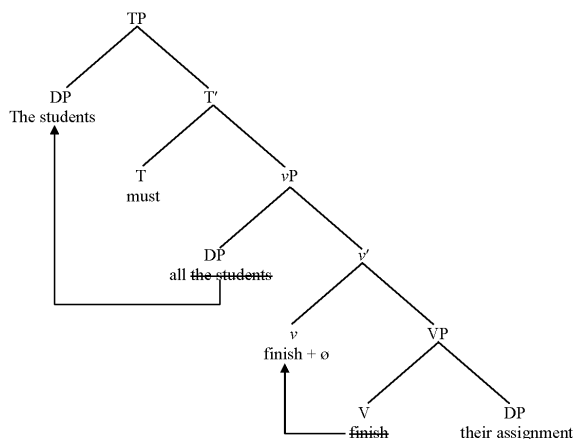
(鈴木 有咲・学部4年)

分野・専門紹介—File65

英語の観察を通じて、人間の言語能力を探る

分野・専門名：英語学

The students must all finish their assignment.



私たちは日常的に言語を用いますが、言語がどこに存在するのかを考えたことはありますか。人はしばしば言語が人間とは独立して社会に存在するように述べる可能性があります。たとえば「古典ラテン語は死んだ言語である」という述べ方で言語をある種の生き物のように扱う場合が挙げられるでしょう。この考えは一見したところ正しそうですが、あくまでも表面的な観察に過ぎません。ある言語を話す人間が社会からいなくなり、誰も新しくその言語を身につけなくなったとき、あたかもその言語が絶滅したように感じられるに過ぎないということです。つまり、言語は人間の中に存在するということです。

以上の議論が正しいとして、人間が持つ言語能力は脳にどのようなものとして存在するのでしょうか。人間の言語習得を実現するこの能力はどのようなものなのでしょうか。言語は脳などの器官に障害を持たない人であれば誰でも習得可能であり、ノーベル賞学者のような頭脳明晰さも必要としません。また、幼児が接する言語資料が量的にも質的にも十分ではないことがありえますが、それでもなお言語習得が可能であることをふまえると、人間という種には言語習得を可能にする生得的な知識が備わっていると考えられます。生成文法と呼ばれる私たちの研究分野において、遺伝的に決定されたそのような知識を普遍文法と呼びます。本研究室では、生成文法を提唱したノーム・チョムスキーという言語学者の方法論に基づき、たとえば左上に示されるような樹形図を用いた形式化を通じて、英語をたよりに人間の言語能力を探ります。皆さんと共に研究できる日を心待ちにしています。

(森 敏郎・博士後期課程3年)

最近の文学部

6月から新スタート

警戒宣言は解除されたものの、名大文学部の春学期は遠隔授業のみとなりました。教室で友達と議論したり、図書館でのんびりと本を読んだり、資料を探したり、そんな当たり前のことが夢のようです。緑豊かな東山キャンパスの散策やサークル活動を楽しめる日が1日でも早く来ることを祈っています。(YK)

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...
名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)